

【報道関係各位】

2023年3月2日
一般財団法人 日本気象協会

2023年桜開花予想（第3回）

3月は序盤から春本番の暖かさ 開花トップは福岡・高知で14日

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：長田 太、以下「日本気象協会」）は、日本全国84地点の桜〔ソメイヨシノ ほか〕の開花予想（第3回）を、2023年3月2日（木）に発表します。なお、今回からは標本木以外の地点や満開予想日も発表します。

開花予想前線図



開花・満開予想日(主な地点)

地点	開花 予想日と平年比			満開 予想日と平年比		
	開花 予想日	平年比	平年開花日	満開 予想日	平年比	平年満開日
鹿児島市	3/19	かなり早い	3/26	3/20	3/29	かなり早い
福岡市	3/14	かなり早い	3/22	3/17	3/23	かなり早い
高知市	3/14	かなり早い	3/22	3/19	3/22	かなり早い
広島市	3/17	かなり早い	3/25	3/21	3/27	かなり早い
大阪市	3/21	早い	3/27	3/23	3/29	早い
名古屋市	3/19	早い	3/24	3/22	3/26	かなり早い
千代田区	3/18	早い	3/24	3/20	3/25	早い
長野市	4/6	早い	4/11	4/9	4/12	早い
新潟市	4/1	かなり早い	4/8	4/8	4/5	かなり早い
金沢市	3/27	かなり早い	4/3	3/30	3/31	かなり早い
仙台市	3/29	かなり早い	4/8	4/8	4/3	かなり早い
秋田市	4/10	かなり早い	4/17	4/12	4/17	早い
青森市	4/14	かなり早い	4/22	4/16	4/19	かなり早い
札幌市	4/26	早い	5/1	4/23	4/30	早い
釧路市※	5/9	かなり早い	5/16	5/8	5/12	かなり早い

※釧路市はエゾヤマザクラの予想



開花と満開の傾向

3月上旬から中旬にかけて、全国的に気温が平年よりかなり高くなる予想のため、桜の開花は平年より早いところが多いでしょう。この高温傾向は東日本と北日本で顕著に予想され、これらの地域では、開花最早記録に迫る地点もある見込みです。

今年の開花は、3月14日に福岡と高知からスタートするでしょう。16日には熊本と宮崎、17日には広島、18日には長崎や佐賀、東京などで開花する見込みです。3月末までに九州から関東にかけて広く開花し、北陸や長野、東北の一部地域でも3月中に開花するところがあるでしょう。桜前線は4月下旬に津軽海峡を渡り、4月25日に函館、26日に札幌で開花する見込みです。

3月の高温傾向は、後半になるにつれて落ち着く予想ですが、依然として平年より気温が高い状態が続くため、開花日同様、満開日も全国的に平年より早くなるでしょう。3月下旬には九州から関東の広い範囲と、北陸や東北の一部で満開となり、東京では3月25日に満開となる見込みです。北陸や東北では、平年より10日ほど早く満開を迎える地点もあるでしょう。

この冬(12月～2月)は、たびたび強い寒気が流れ込みました。全国的に厳しい寒さの日も多く、桜の花芽の休眠打破※は順調に行われたとみられます。一方3月は、全国的に顕著な高温傾向が予想されており、開花・満開ともに早くなる条件が整うでしょう。

※休眠打破:前年の夏に形成され休眠に入った花芽が、冬になり一定期間の低温にさらされて目覚めること

全84地点の桜の開花予想日は、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア『tenki.jp(てんきじえーぴー)』桜の開花予想ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

【言葉の説明】

平年:1991～2020年の平均値

かなり早い	:平年よりも7日以上早い
早い	:平年よりも3日から6日早い
平年並	:平年との差が2日以内
遅い	:平年よりも3日から6日遅い
かなり遅い	:平年よりも7日以上遅い

以 上



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1:桜開花予想の発表のスケジュールは？

A1:以下の日程を予定しています。1月、2月中は開花予想日のみを発表し、3月以降は開花予想日と満開予想日を発表します。

第1回 1月26日(木)	第2回 2月16日(木)	第3回 3月2日(木)	第4回 3月9日(木)
第5回 3月16日(木)	第6回 3月23日(木)	第7回 3月30日(木)	第8回 4月13日(木)
第9回 4月27日(木)			

Q2:開花日・満開日の基準は？

A2:気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で5～6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3:予想する地点数は？

A3:1月、2月中は49地点、3月以降は全国で84地点を予定しています。予想地点84地点は、各地気象台が観測する標本木53地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる31地点となります。

※当初は89地点の発表を予定しておりましたが、検討の結果、84地点に変更となりました。

Q4:日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4:花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

日本気象協会は2007年から桜の開花予想を実施しており、今年で17年目の取り組みです。

Q5:開花予想に使うデータは？

A5:以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。